静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第242集

大岡元長窪線関連遺跡Ⅳ

平成21・22年度（主）大岡元長窪線地域活力基盤創造交付金（道路改築）
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

柏窪Ａ遺跡

２０１１

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第242集

大岡元長窪線関連遺跡Ⅳ

平成21・22年度（主）大岡元長窪線地域活力基盤創造交付金（道路改築）
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

柏窪Ａ遺跡

２０１１

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

大岡元長窪線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成11年から始まり今回の発掘調査は第４回目に当たります。

調査開始から現在に至るまでの間に、大岡元長窪線建設をはじめとし、本遺跡周辺では中日本高速道路株式会社による新東名高速道路、国土交通省による東駿河湾環状道路の建設が進んでおり、長泉町上長窪地区は大きく変貌を遂げています。

今回の調査は、静岡県沼津土木事務所により進められてきた新東名高速道路長泉インターチェンジへのアクセス道路整備工事に伴う発掘調査であり、縄文時代と旧石器時代の遺構が確認されました。特に旧石器時代の土坑については、同様の遺構が同じ長泉町の柏葉尾遺跡や桜畑上遺跡などからも確認されており、これらの土坑との関係などから、用途等を考える上で新たな資料を提供することができました。

本報告書が広く県民の方々に活用され、埋蔵文化財への理解と地域の歴史への興味が一段と深められることを願っております。

最後になりましたが、大岡元長窪線関連遺跡の現地調査ならびに本書の作成にあたって、静岡県沼津土木事務所をはじめ、多くの関係機関の援助、ご協力を得たことについて、厚くお礼申し上げます。

また、この場をお借りして、現地調査・資料整理に参加された作業員の皆様に深く感謝申し上げます。

平成23年２月

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所　長　　石　田　　彰

例　言

1．本書は静岡県駿東郡長泉町上長窪764－1他に所在する、柏窪A遺跡の発掘調査報告書である。
2．現地調査は、「平成21年度（主）大岡元長窪線地域活力基盤創造交付金（道路改築）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託」として、静岡県沼津土木事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行なった。
3．資料整理は平成22年11月９日～平成23年３月15日に行なった。
4．調査の体制は次のとおりである。

平成21年度　現地調査

常務理事兼所長　天野　忍　　次長兼総務課長　松村　享　　次長兼調査課長　及川　司
次長兼事業係長　稲葉保幸　　事業担当　副主任　青井拓司
調査担当　次長兼東部総括係長　中鉢賢治　　東部調査係長　笹原千賀子
調査研究員　久瀬　要　　準調査員　吉村たまみ

平成22年度　現地調査

常務理事兼所長　石田　彰　　次長兼総務課長　松村　享　　調査課長　中鉢賢治
総務係長　瀧みやこ　　専門監兼事業係長　稲葉保幸　　事業担当　副主任　青井拓司
調査担当　調査一係長　勝又直人　　常勤嘱託員　中島金太郎　　準調査員　吉村たまみ

平成22年度　資料整理

常務理事兼所長　石田　彰　　次長兼総務課長　松村　享　　調査課長　中鉢賢治
総務係長　瀧みやこ　　専門監兼事業係長　稲葉保幸　　事業担当　副主任　青井拓司
調査担当　調査二係長　岩本　貴　　準調査員　吉村たまみ

5．本書の執筆は、吉村たまみが行なった。
6．石器については、当研究所常勤嘱託員中村雄紀の指導を仰いだ。
7．基準杭設置と空中写真撮影は、株式会社シン技術コンサルに委託した。
8．本書の編集は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行なった。
9．発掘調査資料は、静岡県教育委員会文化財保護課が保管している。

凡　例

1．調査区のグリッド設定は、世界測地形を使用し、（X，Y）＝（－95070.0，34560.0）上を（A，１）とし、X軸（南北）方向にアルファベットを付し、Y軸（東西）方向にアラビア数字を付した。
また遺跡全体に一辺10mの方眼を設定しグリッドとした。該当グリッドは、南西角の交点をもって名称した。
2．遺物の取り上げや遺構の測量には、光波測定器を用い、株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を使用し、デジタルデータとして保存した。
3．本文や観察表に使用する色彩に関する用語・記号は、新版「標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修2003年版）を使用した。
4．本書掲載図の作成に、Adobe Illustrator C3を使用した。
5．挿図の縮尺は、各図に示したスケール通りである。

目　次

序／例言／凡例
第Ⅰ章　調査の概要
第１節　調査に至る経緯……1
第２節　大岡元長窪線関連遺跡の調査……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境
第１節　地理的環境……2
第２節　歴史的環境……2
第Ⅲ章　調査方法と経過
第１節　調査の方法……4
第２節　調査の経過……4
第３節　基本土層……5
第Ⅳ章　調査成果
第１節　旧石器時代の遺構・遺物……7
第２節　縄文時代の遺構……9
第Ⅴ章　まとめ……13

挿図目次

第１図　周辺の遺跡……3
第２図　基本土層図……5
第３図　土層柱状図……6
第４図　旧石器時代遺構全体図……7
第５図　旧石器時代土坑……8
第６図　旧石器時代剥片……8
第７図　縄文時代遺構全体図……9
第８図　縄文時代土坑……10
第９図　縄文時代小穴……11

挿表目次

第１表　周辺の遺跡一覧……3
第２表　縄文時代土坑計測表……12
第３表　縄文時代小穴計測表……12

写真図版目次

遺跡全景
図版１　１．旧石器時代全景
２．土層(1)TP8
BB0～SCⅢs1層
３．土層(2)TP8
SCⅢs1～中部ローム層
図版２　１．旧石器時代１号土坑
２．旧石器時代２号土坑
３．旧石器時代３号土坑
４．旧石器時代剥片
５．縄文時代遺構
図版３　１．縄文時代10号土坑半截
２．縄文時代10号土坑完掘
３．縄文時代11号土坑半截
４．縄文時代11号土坑完掘
５．縄文時代23号土坑半截
６．縄文時代23号土坑完掘
７．縄文時代３号小穴完掘
８．縄文時代21号小穴完掘

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

静岡県東部は、北に富士山、東に箱根山、南に駿河湾と自然豊かな地域である。休日には多くの観光客が訪れる。また東名高速道路や、JR東海道線・新幹線など主要交通網が発達しており、多くの企業が工場を構え、首都東京まで新幹線を利用して約１時間余りの距離から関東方面への通勤圏内となり、昨今ではベッドタウンとして人口が増加している。

このように訪れるにも居住するにも便利な地域のため、国道をはじめとする幹線道路は休祝日に関係なく慢性的な渋滞を招いている。

この問題を解決するべく新東名高速道路、東駿河湾環状道路（平成21年７月27日一部開通）などの道路建設が行われている。

大岡元長窪線は、新東名高速道路、東駿河湾環状道路建設に伴い、周辺地域の土地利用の高度化を図る必要性と周辺道路の渋滞を緩和するためのアクセス道路として計画された延長25㎞の道路である。路線計画上には多くの遺跡が周知されており、平成10年度に静岡県教育委員会文化課（現教育委員会文化財保護課）、静岡県沼津土木事務所、長泉町、沼津市が協議を行い、長泉町部分の調査を当研究所が担当することとなった。

今回の発掘調査は、平成20・21年度に静岡県教育委員会文化課（現教育委員会文化財保護課）によって行われた確認調査の結果、本調査を行うこととなったものである。

第２節　大岡元長窪線関連遺跡の調査

今まで行われた調査の概要をまとめてみたい。第１次調査として平成11年度に実施した確認調査と、その結果をふまえて平成12・13年度に行われた桜畑上遺跡、中峯遺跡、柏窪B遺跡の本調査が該当する。桜畑上遺跡からは縄文時代早期から後期の遺構・遺物、旧石器時代（休場層）の土坑２基が検出され、中峯遺跡からは、縄文時代早期末から前期初頭の住居跡３軒が検出された。また、柏窪B遺跡からは縄文時代の陥穴が２基検出されており、この結果は「大岡元長窪線関連遺跡Ⅰ」にまとめられている。

第２次調査は、平成16年度に実施した中峯遺跡の本調査、桜畑上遺跡の追加本調査、柏窪B遺跡の確認調査が該当する。中峯遺跡、桜畑上遺跡からは、縄文時代から旧石器時代までの遺構・遺物が検出されており、その結果は「大岡元長窪線関連遺跡Ⅱ」にまとめられている。

第３次調査は、平成17年度に実施した中峯遺跡の確認調査と、平成18・19年度に実施した野台南遺跡、柏窪A遺跡の本調査が該当する。野台南遺跡からは、縄文時代中期後半の石囲炉と埋甕を伴う住居跡２軒や、縄文時代早期から後期までの遺構・遺物、旧石器時代の石器ブロックなどの遺構・遺物が多数検出された。本遺跡の300ｍほど南東にある柏窪A遺跡からは、縄文時代の陥穴と思われる土坑14基が検出されているが、その他の遺構・遺物は全く検出されなかった。この結果は「大岡元長窪線関連遺跡Ⅲ」にまとめられている。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

柏窪A遺跡は、静岡県駿東郡長泉町上長窪に所在する。長泉町は、細長い紡錘形をしており、愛鷹山地と富士溶岩扇状台地とで形成されている。北は裾野市と、東は境川を境に三島市と、南は竹原を境に駿東郡清水町と、西は位牌岳の稜線を境に富士市と、沼津市とは愛鷹山の丘稜から黄瀬川によって境を分けている。

平野部は、都心部からの交通の便がよいことや、豊富な水資源があることから産業の拠点として、多くの工場が立地している。丘稜部は畑作や果樹、畜産など農業の場となっており、良質な生産物を広く流通させている。

愛鷹山は、標高1,187mの独立火山である。50万年前頃の第四期更新世に富士山の前身となる小御岳山や箱根火山とほぼ同時期に誕生した火山である。古期から中期には、流動性の高い玄武岩質の溶岩や凝灰角礫岩を噴出し成層火山の形が出来上がった。新期には、火山活動が北側から南東側へ移動し、安山岩質の溶岩を噴出し南東側に緩やかな扇状台地を形成した。火山活動は約10万年前に休止し、その後古富士火山・箱根火山・新富士火山の噴出物が厚く堆積し、愛鷹ローム層を形成している。

愛鷹ローム層は、下位から下部ローム層、中部ローム層、上部ローム層、現世腐食火山灰層に分かれる。この上部ローム層に旧石器時代の遺跡が発見され、現世腐食火山灰層に縄文時代の遺跡が発見されている。

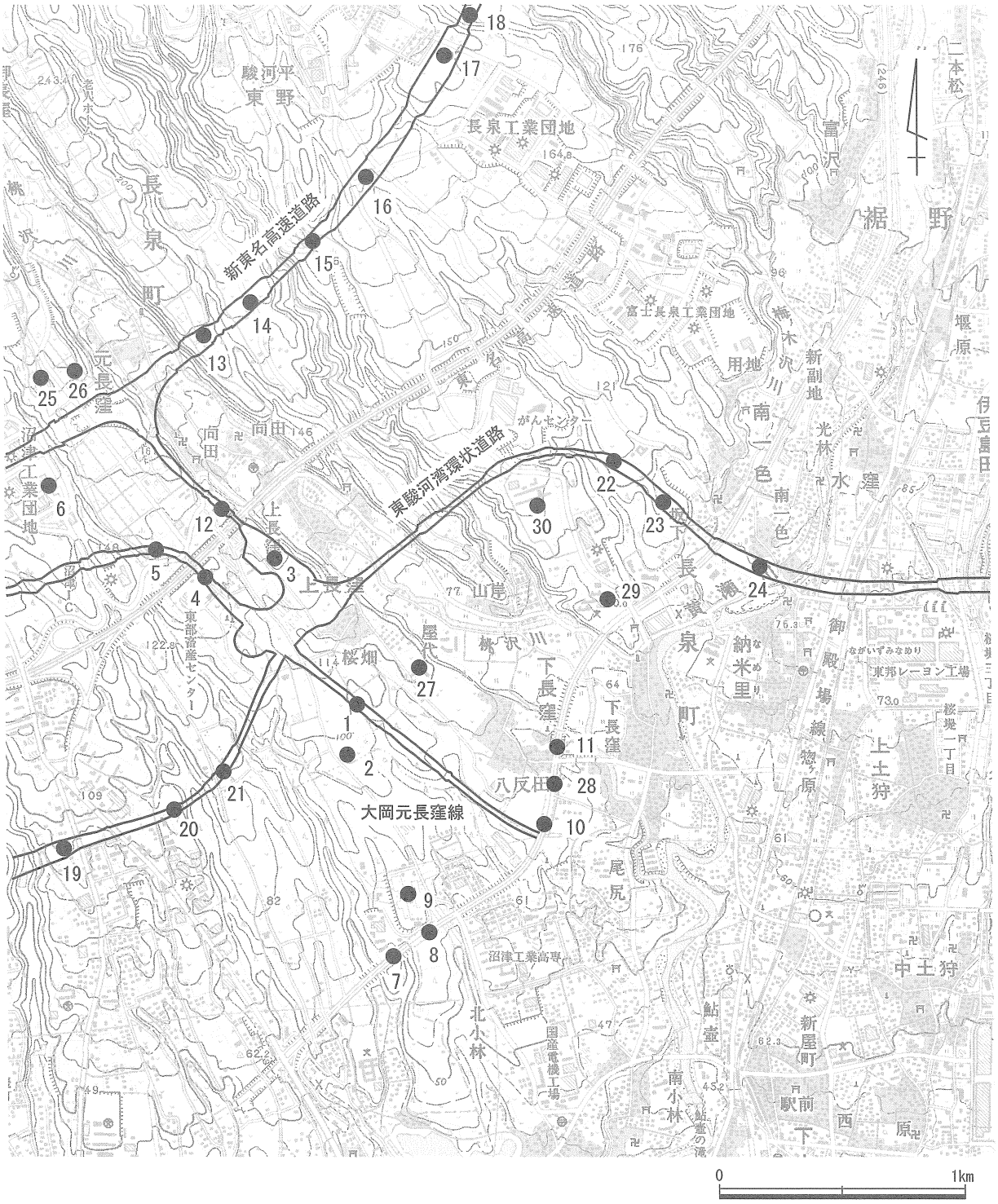
第２節　歴史的環境

柏窪A遺跡は、入り組んだ開析谷が発達し比較的緩やかな斜面地となった愛鷹山麓南東部に位置している。北へ約800mのところには東名高速道路が走り、すぐ北側には東駿河湾環状道路が走っている。また新東名高速道路建設などのため、遺跡周辺の長窪地区は大きく変貌している。

大岡元長窪線をはじめ、新東名高速道路、東駿河湾環状道路各路線内やその周辺には、多くの遺跡が周知されており、道路建設に伴う埋蔵文化財調査も多く行われ、新たな発掘資料が蓄積されている。

ここでは旧石器時代及び縄文時代の成果について簡単に記したい。大岡元長窪線建設に伴う発掘調査については、調査の概要に記述した通りである。新東名高速道路建設に伴う発掘調査では、旧石器時代の石器ブロック、縄文時代早期の住居跡、玦状耳飾りなどを含む石製品14点が出土した桜畑上遺跡や、旧石器時代（第Ⅲ黒色帯層）の土坑、縄文時代早期撚糸文土器が出土した向田A遺跡、旧石器時代の石器ブロック、縄文時代早期から前期の土器が出土した細尾遺跡などがある。東駿河湾環状道路建設に伴う発掘調査では、縄文時代早期の住居跡を検出した上松沢平遺跡、縄文時代草創期の表裏縄文土器が多数出土した丸尾北遺跡、縄文時代中期の配石遺構や敷石住居跡、石囲炉を伴う住居跡が多数検出された桜畑上遺跡や、旧石器時代（第Ⅲ黒色帯層）の土坑群が検出された鉄平遺跡などがある。

また本遺跡と同様の旧石器時代（休場層）の土坑が検出された遺跡には、沼津市柏葉尾遺跡、清水柳北遺跡、子ノ神遺跡、茗荷沢遺跡、的場遺跡、長泉町桜畑上遺跡、陣場上B遺跡、西願寺遺跡などがあげられる。



第１図　周辺の遺跡（1/25,000）
（国土地理院発行１：25,000沼津、三島を複写して使用）

第１表　周辺の遺跡一覧

1	柏窪A遺跡	7	大谷津遺跡	13	向田A遺跡	19	上松沢平遺跡	25	中尾遺跡
2	柏窪A遺跡(平成18年度)	8	子ノ神遺跡	14	細尾遺跡	20	寺林遺跡	26	イラウネ遺跡
3	桜畑上遺跡	9	柏葉尾遺跡	15	八分平E遺跡	21	丸尾北遺跡	27	八反田遺跡
4	中峯遺跡	10	陣馬上遺跡	16	富士石遺跡	22	池田B遺跡	28	平畦遺跡
5	野台南遺跡	11	西願寺遺跡	17	東野遺跡	23	鉄平遺跡	29	上野遺跡
6	清水柳北遺跡	12	西山遺跡	18	梅ノ木沢遺跡	24	大平遺跡	30	茶木畑遺跡

第Ⅲ章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

１　実測・測量方法

グリッド杭７本を使用し、測量を行った。遺構平面図・地形測量等についてはトータルステーションを用い、株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を使用し、デジタルデータとして保存した。遺構の土層断面図など手取りによる実測は縮尺１／20を基本とした。

２　記録写真

写真撮影は、35㎜カラーネガ、６×７判モノクロを組み合わせて使用した。調査区全景写真撮影にはローリングタワーを使用した。また、遺跡周辺の景観を含めた記録としてラジコンヘリコプターによる空中撮影も行った。

第２節　調査の経過

１　確認調査

平成20・21年度に静岡県教育委員会文化課（現教育委員会文化財保護課）により実施された。遺物の出土はなかったが、旧石器時代の土坑がそれぞれ１基ずつ検出された。

２　本調査

確認調査の結果より、1,674㎡が本調査範囲となった。平成21年１月19日から準備工を開始し、２月１日から重機による表土除去を開始し、３日から掘削作業を開始した。４日には、グリッド杭を打設した。

当初の工程は、確認調査の結果を受け旧石器時代包含層を対象とする１面調査の予定だったが、表土除去後調査区南側と旧農道部分に縄文層の堆積がみられたため、休場層上面での縄文時代の遺構検出を実施することとなり、２月８日から縄文時代包含層の掘削に入った。２月23日からは縄文時代の遺構調査を開始し、土坑・小穴65基を検出し、掘削・実測・写真撮影を行った。３月12日から旧石器時代の休場層から休場層直下黒色帯までを掘削し、遺構検出を行った。その結果、１基の土坑を検出した。確認調査で検出された２基と合わせて計３基の土坑の掘削・実測・写真撮影を行った。その後、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。

４月21日から、下部層調査を開始した。４×４ｍのテストピットを７ヵ所設定し、まず第Ⅲスコリア帯まで掘削した。その内、テストピット６については確認調査時に掘削した箇所とし、４×４ｍのテストピットの内側に２×２ｍのテストピットを設定し、中部ローム層までの掘削を行った。その間掘削作業に並行して、実測・写真撮影を行った。遺構遺物が認められなかったため、５月26日で掘削作業は終了した。27日には、ローリングタワーを使用し掘削終了写真を撮影し、28日から重機による埋め戻しを行い、６月１日に撤収・撤去が完了した。

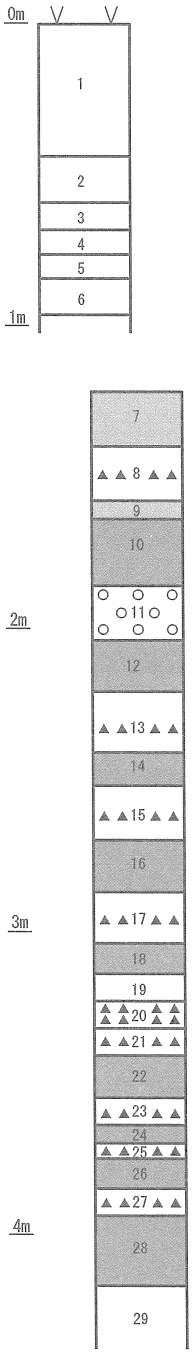
３　資料整理

基礎整理となる遺物洗浄・注記、写真・図面整理においては、発掘作業と並行して行った。本書作成は、平成22年11月９日から翌年３月15日まで行った。現地で作成した図面を報告書掲載用図面にするために、加工・修正を行い全体図・遺構図等を作成した。遺物写真は、６×７判カメラを使用した。

第３節　基本土層

愛鷹山は約70万年～80万年に活動を開始し、約10万年前ころには活動を終了した火山である。その後、古富士火山・箱根火山・新富士火山が噴火を開始し、周囲には火山噴出物が堆積した。これら富士山起源の火山灰は、愛鷹山東南麓に厚く堆積しており愛鷹ロームと呼ばれる。1967～1968年に愛鷹ローム団研グループ（愛鷹ローム団研グループ1969）により上部ローム・中部ローム・下部ロームと大別されている。上部ロームの下限は約３万年前で、スコリア層と黒色帯（埋没土腐植層）が互層になっており、それぞれにローマ数字が付されている。愛鷹山周辺の発掘調査の層名もこれに基づいて表記されている。

本遺跡の土層堆積も基本的にこの基本層序に一致する。



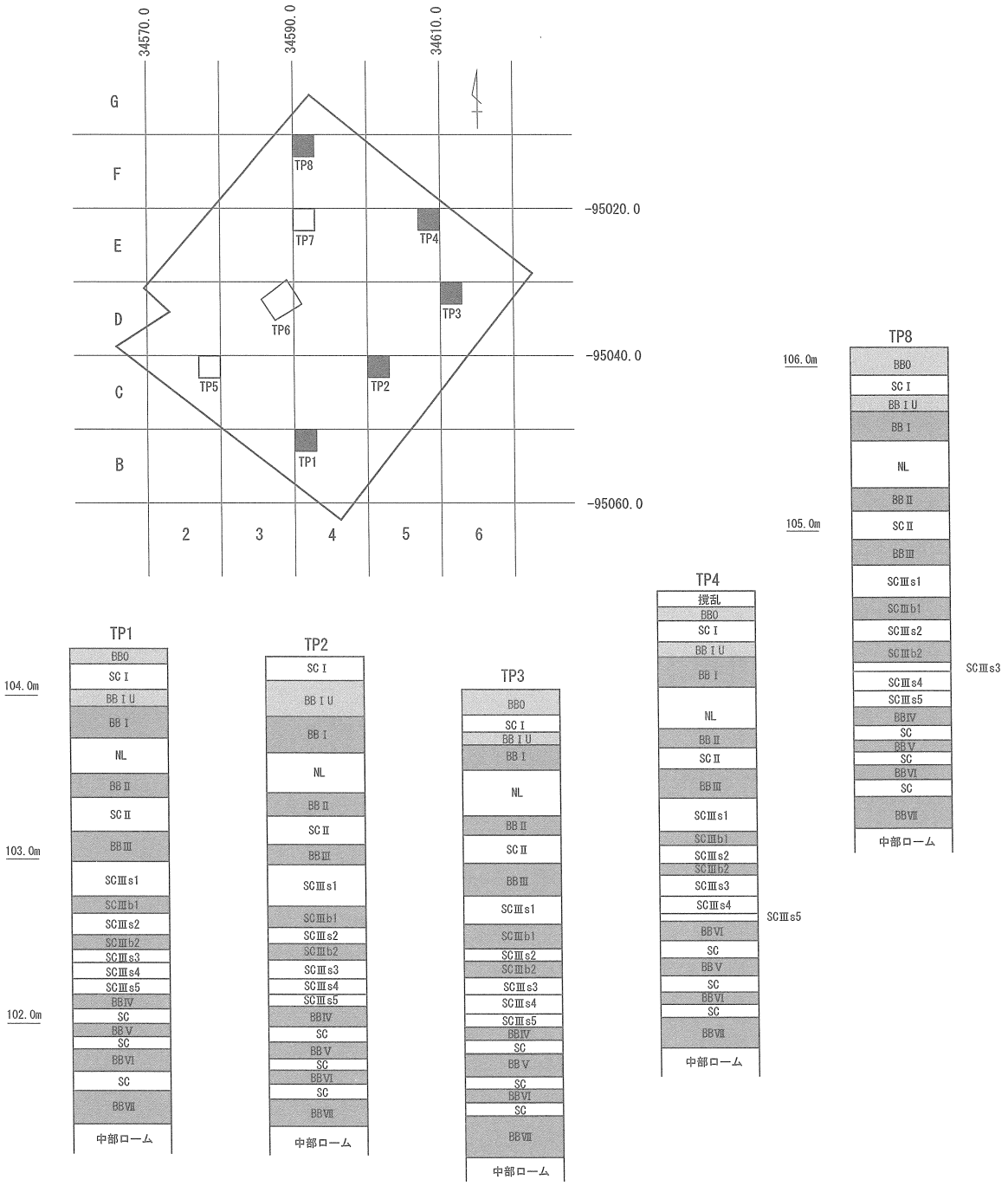
番号	層序	愛鷹基本層序・記号	色調	粘性	しまり	含有物
1	耕作土					
2	黒褐色土	暗褐色土 AN	10YR2/2	無	やや有	1mmの橙色スコリア、極小量。
3	暗褐色土	漸移層 ZN	10YR3/3	有	やや有	1mmの橙色スコリア、極少量。
4	褐色土	休場層上位 YLU	7.5YR4/4	有	有	極小の炭化物、少量。
5	褐色土	休場層中位 YLM	10YR4/6	有	有	2mmの橙色スコリア、少量。
6	黄褐色土	休場層下位 YLL	7.5YR4/3	強	やや有	2～3mmの橙色スコリア、多量。
7	暗褐色土	休場層直下黒色帯 BBO	10YR3/4	有	やや有	1～4mmの橙色スコリア、少量。炭化物。
8	極暗褐色土	第Ⅰスコリア層 SCⅠ	7.5YR2/3	有	やや有	1～6mmの橙色・黒色・褐色スコリア、密集。
9	黒褐色土	第Ⅰ黒色帯 BBⅠU	10YR2/2	有	有	2～7mmの橙色・赤色スコリア。
10	黒色土	第Ⅰ黒色帯 BBⅠ	10YR1.7/1	有	有	1～5mmの橙色スコリア、極少量。
11	暗褐色土	ニセローム層 NL	10YR3/3	有	有	1～7mmの橙色・赤色・黒色・褐色スコリア、密集。
12	黒褐色土	第Ⅱ黒色帯 BBⅡ	10YR2/3	有	有	2～8mmの橙色・褐色スコリア、少量。
13	黒褐色土	第Ⅱスコリア層 SCⅡ	10YR2/2	有	有	1～5mmの橙色・赤色・褐色スコリア、多量。
14	黒色土	第Ⅲ黒色帯 BBⅢ	10YR1.7/1	有	有	1～4mmの橙色・褐色スコリア、極少量。
15	黒褐色土	第Ⅲスコリア帯スコリア1 SCⅢs1	10YR2/3	強	有	1～4mmの橙色・赤色・褐色・黄色スコリア、密集。
16	黒褐色土	第Ⅲスコリア帯黒色帯1 SCⅢb1	10YR2/2	有	有	1～6mmの橙色・赤色・褐色・黄色スコリア、多量。
17	暗褐色土	第Ⅲスコリア帯スコリア2 SCⅢs2	7.5YR3/3	やや強	有	1～10mmの橙色・赤色・褐色・こげ茶スコリア、密集。白色パミス。
18	黒褐色土	第Ⅲスコリア帯黒色帯2 SCⅢb2	10YR3/2	有	有	1～6mmの橙色・褐色スコリア、多量。岩片。
19	極暗褐色土	第Ⅲスコリア帯スコリア3 SCⅢs3	7.5YR2/3	強	有	1～8mmの橙色・赤色・褐色・黄色スコリア、密集。岩片。
20	極暗褐色土	第Ⅲスコリア帯スコリア4 SCⅢs4	7.5YR2/3	強	有	岩片。
21	暗褐色土	第Ⅲスコリア帯スコリア5 SCⅢs5	10YR3/3	有	有	1～2mm橙色・赤色スコリア、多量。
22	黒褐色土	第Ⅳ黒色帯 BBⅣ	10YR2/3	有	有	1～3mmの橙色・赤色・褐色スコリア、多量。
23	黒褐色土	スコリア層 SC	10YR2/2	やや強	有	1～8mmの橙色・赤色・褐色・こげ茶色スコリア、密集。白色パミス。
24	黒褐色土	第Ⅴ黒色帯 BBⅤ	10YR2/3	有	有	2～5mmの橙色・褐色・黄色スコリア、やや多い。
25	黒褐色土	スコリア層 SC	10YR2/2	有	有	2～9mmの橙色・赤色・褐色・黄色スコリア、やや多い。
26	黒褐色土	第Ⅵ黒色帯 BBⅥ	10YR2/2	有	有	2～8mmの橙色・褐色・黄色スコリア。
27	黒褐色土	スコリア層 SC	10YR2/3	有	有	1～4mmの橙色・赤色・褐色スコリア、やや多い。
28	黒褐色土	第Ⅶ黒色帯 BBⅦ	10YR2/3	有	有	1～4mmの橙色・赤色スコリア、極少量。
29	褐色土	中部ローム	10YR4/6	有	やや強	1～7mmの赤色・黒色スコリア。

第２図　基本土層図

調査区全体の土層について

柏窪A遺跡周辺一帯の上長窪は、昭和44年に農業改善事業が行われている。その為、現地形は昔からの様相を現していない。

遺跡内は、畑作が営まれており、耕作による撹乱が広がり縄文時代の包含層に当たる暗褐色土の堆積は、ほとんどみられず、確認できたのは、調査区南側と農道が通っていた部分のみだった。北東部分は、撹乱が深く休場層直下黒色帯（BB０）から第Ｉスコリア帯（SCＩ）まで影響をうけていた。また、調査区北側から南東にわたって断層が走っており、休場層（YL）から中部ローム層まで影響をうけている。堆積が良好だった部分では、愛鷹山周辺の基本層序を確認することができた。



第３図　土層柱状図

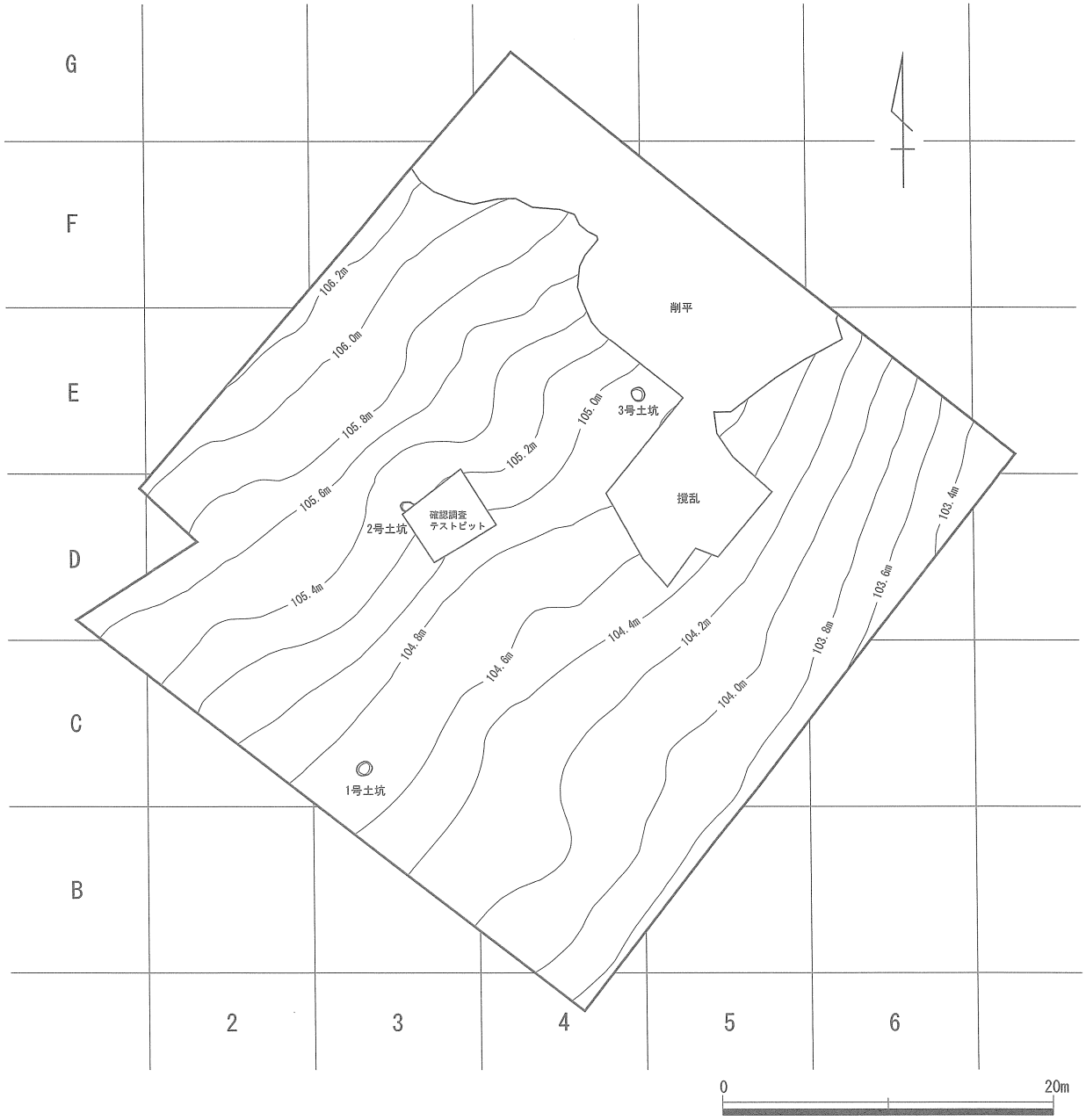
第Ⅳ章　調査成果

第１節　旧石器時代の遺構・遺物

１　遺構

２回の確認調査と本調査によって、休場層直下黒色帯直上で３基の土坑が検出された。３基とも形状や深さなどから陥穴として考えられる。

１号土坑と３号土坑は、主に休場層上位（YLU）を覆土としている。２号土坑は、確認調査時のテストピットによりほぼ真ん中で切られている。また、休場層上位（YLU）が覆土となっているが、遺構検出面までが撹乱されていた為か、土坑覆土も一部撹乱を受けていたようである。１号・２号・３号の間隔は、約16mでほぼ等間隔である。



第４図　旧石器時代遺構全体図

１号土坑

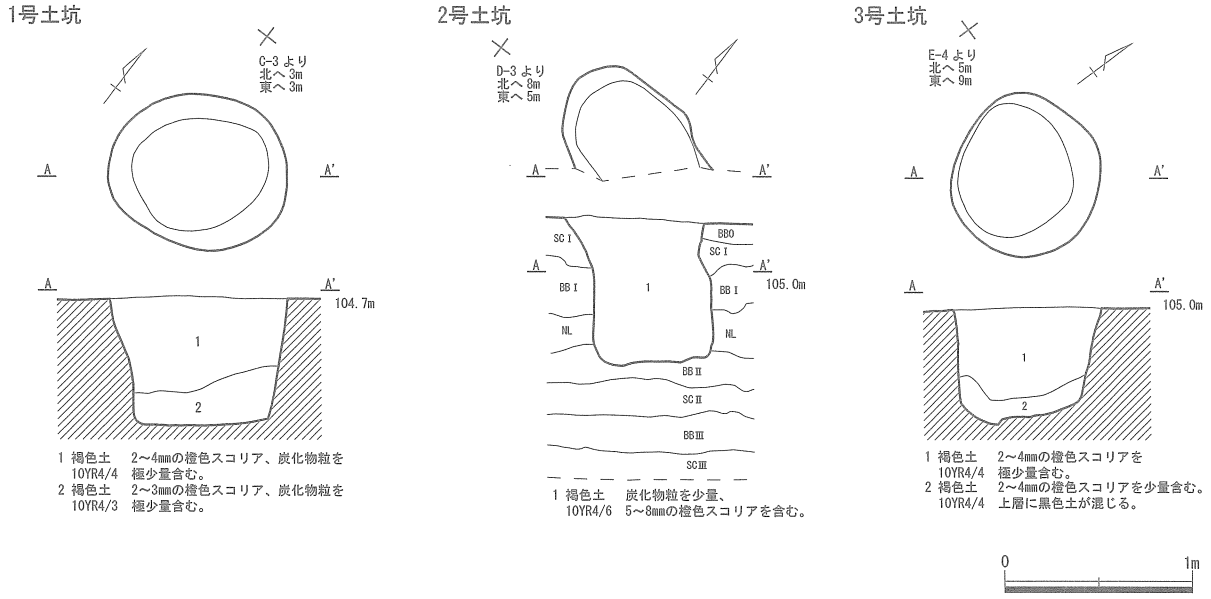
Ｃ－３グリッドで検出された。長径0.95m、短径0.82mの楕円形を呈する。検出面から底部までの深さは、0.73mである。覆土は、休場層で炭化物を極少量含んでいる。遺物の出土はない。

２号土坑

確認調査のテストピット壁で確認（Ｄ－３グリッド）された。ほぼ中央で切られている。長楕円形だったと考えられる。検出面直上まで撹乱土だったためか、覆土は休場層が主体だったが鉄分のようなものが含まれており、ほかの２基とはやや違った。検出面から底部までの深さは、0.80mである。遺物の出土はない。

３号土坑

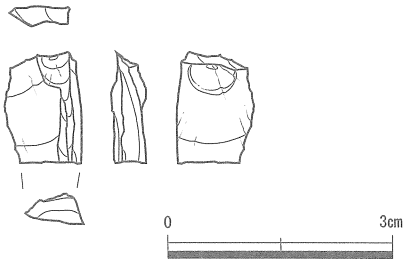
Ｅ－４グリッドで検出された。長径0.85m、短径0.77mの楕円形を呈する。検出面から底部までの深さは、0.62mである。遺物の出土はない。



第５図　旧石器時代土坑

２　遺物

出土石器は剥片１点である（第６図）。Ｄ－４グリッド、休場層上位から出土しており、旧石器時代の所産と考えられる。単剥離打面の縦長剥片と見られるが、下半部は折損している。ガラス質黒色安山岩製で、現存長1.45cm、幅1.05cm、厚さ0.45cm、重量0.87ｇである。



第６図　旧石器時代剥片

第２節　縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は、休場層上面を検出面とし土坑及び小穴を検出した。土坑及び小坑の分類は長径が50㎝以上のものを土坑、それ以下のものを小穴とした。削平や撹乱によって遺構が確認できた面積は狭かったが、土坑は全体に分布し、小穴は南側に多く分布していた。

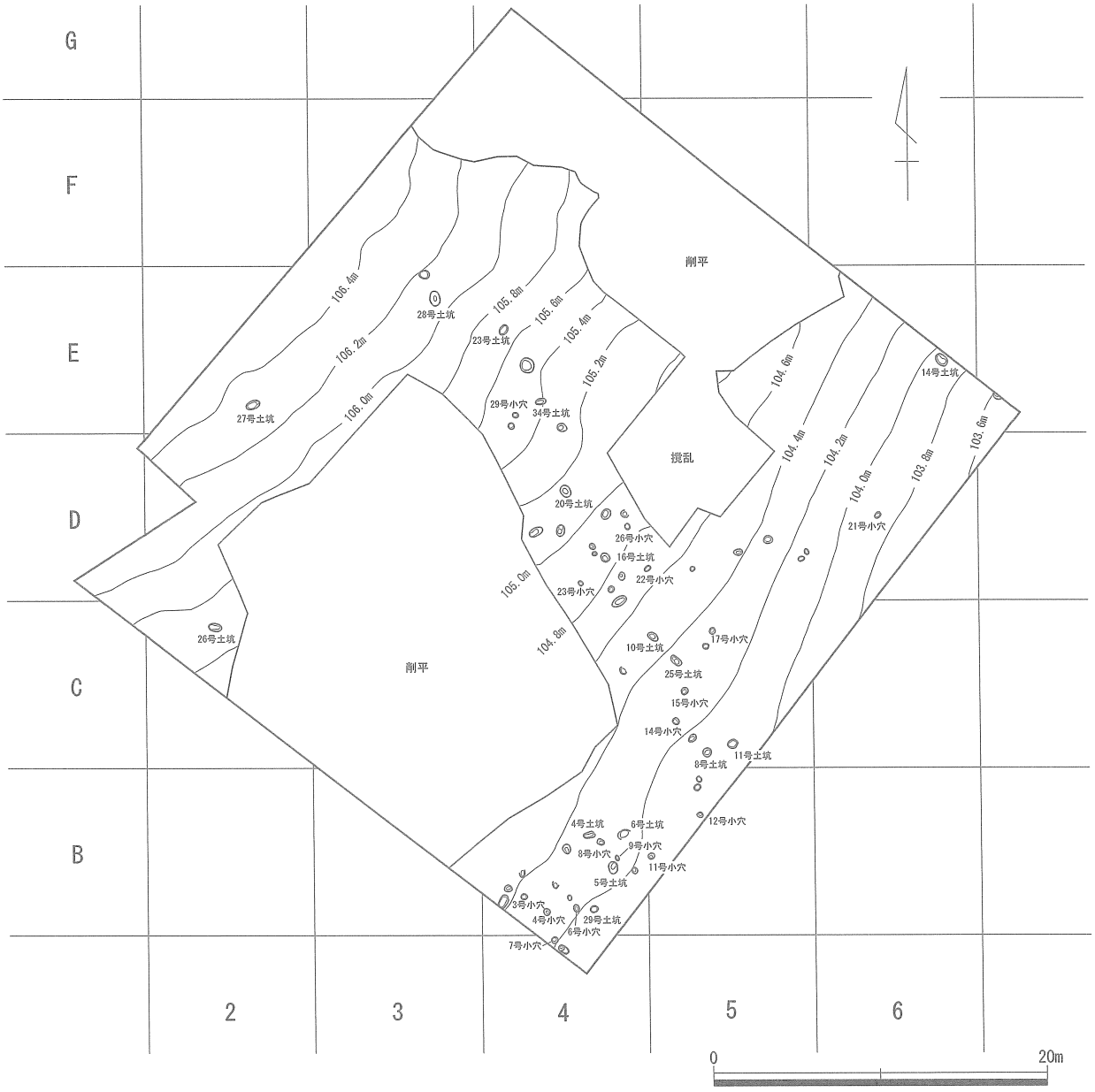
１　土坑

土坑は、34基検出された。覆土が暗褐色土だったため、縄文時代のものと考えられるが遺物が共伴しなかったことから時期決定は困難である。形状等により、以下の通り分類した。それぞれの分類については、土坑計測表に掲載した。

平面形状　Ⅰ－　円形　　Ⅱ－　楕円形

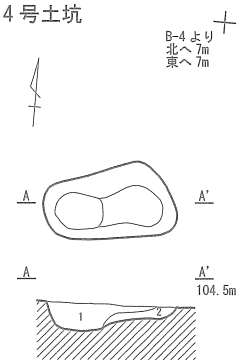
断面形状　ａ－　レンズ状　　ｂ－　逆台形状　　ｃ－　底部２段

ｄ－　椀状　　ｅ－　中央のみ深い



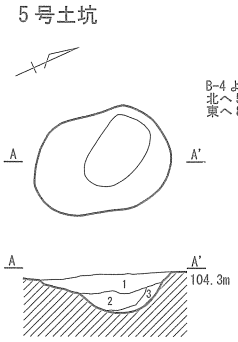
第７図　縄文時代遺構全体図

4号土坑



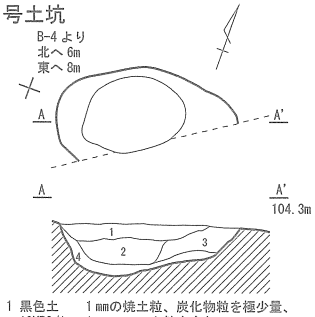
1 黒褐色土 10YR2/2　2㎜の橙色スコリアを極少量、1㎜の焼土粒、炭化物粒を少量、1㎜のローム粒を含む。
2 暗褐色土 7.5YR3/3　1とローム土の混土。

5号土坑



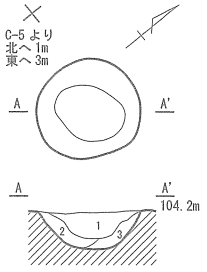
1 暗褐色土 7.5YR3/2　5㎜のローム粒を極少量、1㎜の焼土粒、炭化物粒を含む。
2 暗褐色土 10YR3/3　3㎜の橙色スコリアを少量、1㎜の焼土粒、炭化物粒を含む。
3 暗黄褐色土 7.5YR4/3　2にローム土が混じる。

6号土坑



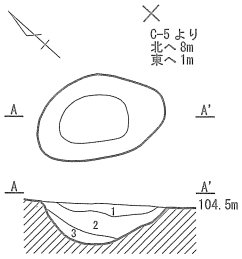
1 黒色土 10YR2/1　1㎜の焼土粒、炭化物粒を極少量、1㎜のローム粒を含む。
2 黒色土 10YR2/1　1～2㎜のローム粒を多量に、1㎜の焼土粒、炭化物粒を含む。
3 黒褐色土 7.5YR2/2　1cmのローム粒を極少量、1㎜の焼土粒、炭化物粒を少量、1～3㎜のローム粒を多量に含む。
4 黒褐色土 7.5YR3/3　ローム土、1㎜の焼土粒、炭化物粒を含む。2～3㎜の橙色スコリアが下方に少量混じる。

8号土坑



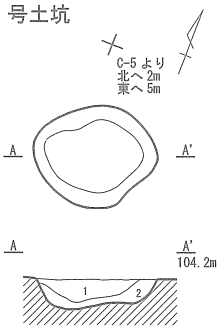
1 黒褐色土 7.5YR2/1　1㎜の焼土粒、炭化物粒、1～2㎜のローム粒を含む。
2 暗褐色土 7.5YR2/1　1㎜の焼土粒、炭化物粒、1～2㎜の橙色スコリアを含む。
3 暗褐色土 7.5YR3/4　1とローム土の混土。

10号土坑



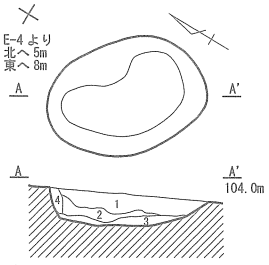
1 黒褐色土 10YR2/2　2～3㎜の橙色スコリアを少量、1㎜の焼土粒、炭化物粒を含む。
2 黒褐色土 10YR2/3　1に1～2㎜のローム粒が少量混じる。
3 暗褐色土 10YR3/3　1とローム土の混土。

11号土坑



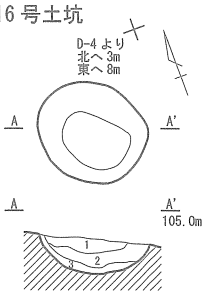
1 暗褐色土 7.5YR2/2　1～2㎜のローム粒を多く、1㎜の焼土粒、炭化物粒を含む。
2 暗褐色土 7.5YR3/3　1とローム土の混土。3㎜の橙色スコリアを極少量含む。

14号土坑



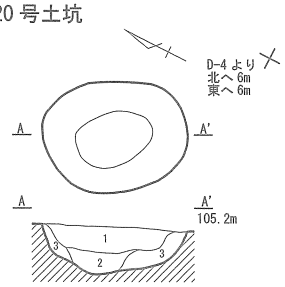
1 黒褐色土 10YR2/3　1～2㎜の橙色スコリアを極少量、1㎜の焼土粒、炭化物粒を少量、1～2㎜のローム粒を含む。
2 黒褐色土 7.5YR3/2　1㎜の炭化物粒を極少量含む。下方に3㎜の橙色スコリアが極少量混じる。
3 暗褐色土 7.5YR4/3　2にローム土が混じる。
4 暗褐色土 10YR3/4　壁の崩落か？

16号土坑



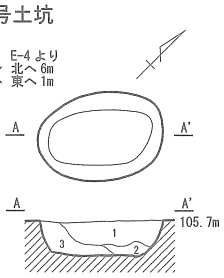
1 黒褐色土 10YR2/2　1㎜のローム粒を多量、1㎜の炭化物粒を極少量、1㎜の焼土粒を含む。
2 黒褐色土 10YR2/3　2㎜の橙色スコリアを極少量、1㎜の焼土粒、炭化物粒、ローム粒を含む。
3 暗褐色土 7.5YR3/4　2とローム土の混土。

20号土坑



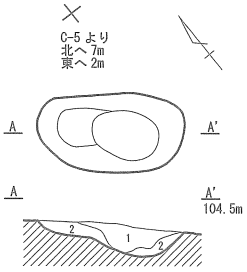
1 黒褐色土 7.5YR2/2　2㎜の橙色スコリアを極少量、1㎜の焼土粒を少量、1～2㎜のローム粒を含む。
2 黒褐色土 7.5YR2/3　1㎜の焼土粒、2㎜の橙色スコリアを極少量含む。
3 暗褐色土 7.5YR3/2　1とローム土の混土。2㎜の炭化物粒、橙色スコリアを少量含む。

23号土坑



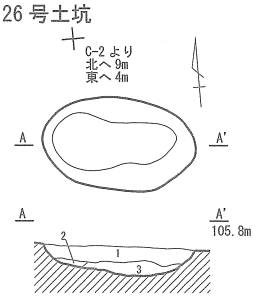
1 黒褐色土 7.5YR2/2　極小の焼土粒、炭化物粒を少量、1～2㎜のローム粒が中央に多く混じる。
2 黒褐色土 10YR2/3　極小の焼土粒、炭化物粒を少量含む。ローム土が混じる。
3 暗褐色土 10YR3/3　5㎜のローム粒を極少量含む。

25号土坑



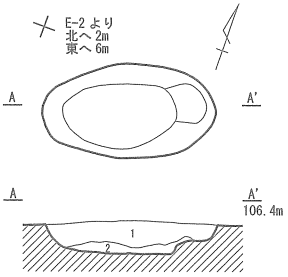
1 黒褐色土 7.5YR2/2　1㎜の炭化物粒、橙色スコリアを極少量、1㎜のローム粒を含む。
2 黒褐色土 10YR3/3　1㎜の炭化物粒、ローム粒、橙色スコリアを含む。

26号土坑



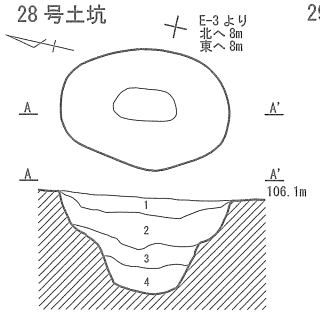
1 黒褐色土 7.5YR2/2　1㎜の焼土粒、炭化物粒、2～3㎜の橙色スコリアを極少量、1㎜のローム粒を含む。
2 黒褐色土 7.5YR3/3　極小の炭化物粒を少量含む。
3 黒褐色土 7.5YR3/4　ローム土の混土。1㎜の炭化物粒を含む。

27号土坑



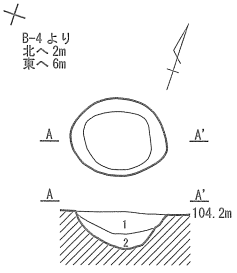
1 黒褐色土 10YR2/2　極小の焼土粒、炭化物粒、1㎜のローム粒を含む。
2 暗褐色土 7.5YR3/3　極小の炭化物粒を極少量、1㎜の焼土粒を含む。

28号土坑



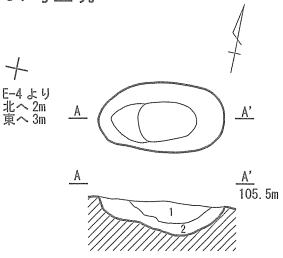
1 黒褐色土 7.5YR2/2　2㎜の橙色スコリアを極少量、1㎜の焼土粒、炭化物粒、1～3㎜のローム粒を含む。
2 黒褐色土 7.5YR2/3　2㎜の橙色スコリアを少量、1㎜の焼土粒、1～2㎜の炭化物を含む。
3 暗褐色土 7.5YR3/3　1㎜の炭化物粒を極少量、3㎜の橙色スコリアを少量、1㎜の焼土粒を含む。
4 暗褐色土 7.5YR3/4　2～3㎜の橙色スコリアを多量、1㎜の焼土粒を含む。

29号土坑



1 暗褐色土 10YR2/3　1㎜の焼土粒、炭化物粒、2～3㎜のローム粒を含む。
2 暗褐色土 10YR3/4　3㎜の橙色スコリアを含む。

34号土坑



1 黒褐色土 7.5YR2/3　1㎜の焼土粒、炭化物粒を少量、1㎜のローム粒を含む。
2 暗褐色土 7.5YR4/4　1㎜の焼土粒、炭化物粒を極少量含む。ローム土が混じる。

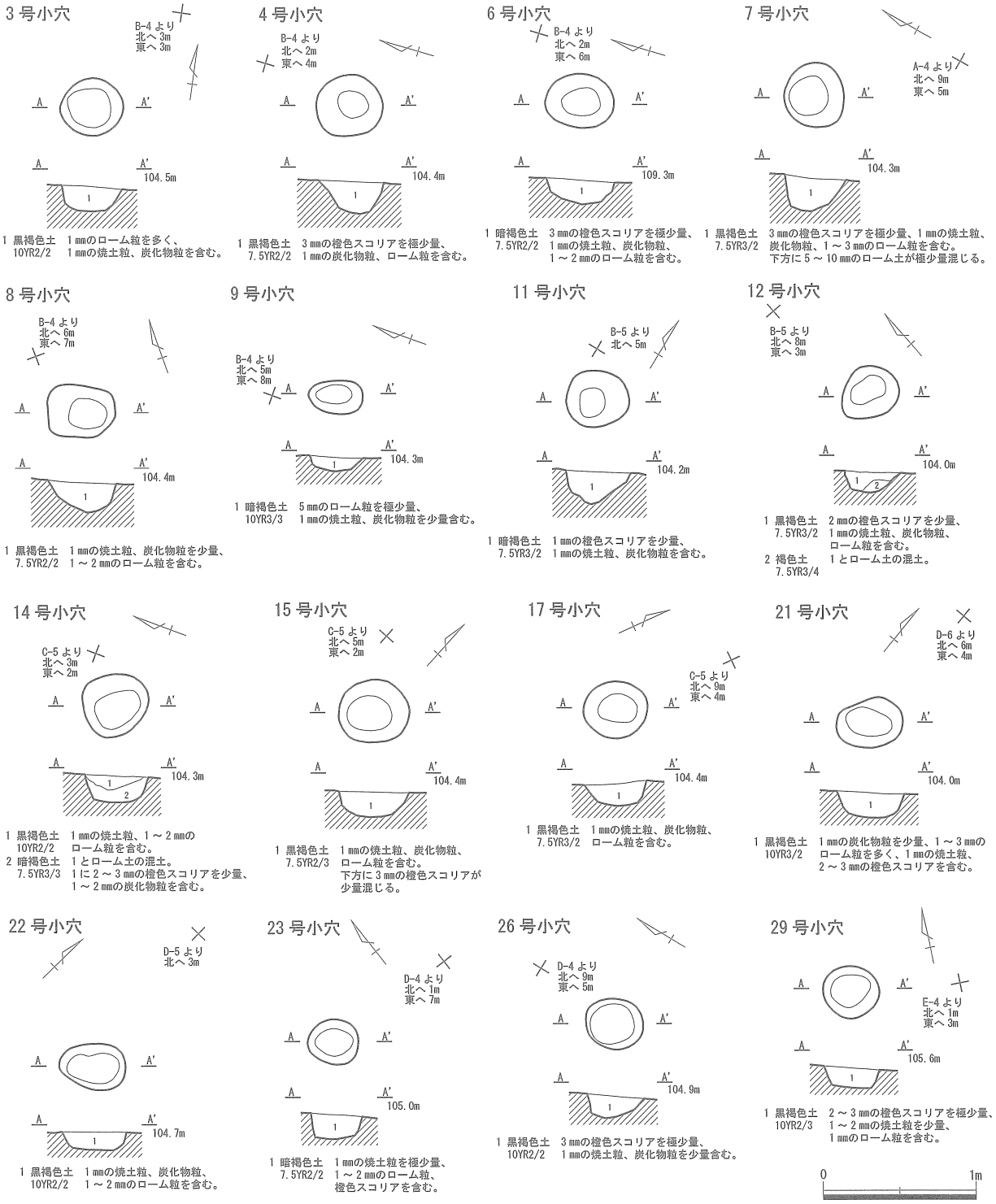
0　1m

第8図　縄文時代土坑

2　小穴

小穴は、31基検出された。遺物が共伴しなかったことから時期決定は困難であるが、土坑と同じく覆土が暗褐色土だったため縄文時代のものと考えられる。形状等により、以下の通り分類した。それぞれの分類については、小穴計測表に掲載した。

平面形状	Ⅰ－　円形	Ⅱ－　楕円形
深さ	a－　20㎝以下	b－　20㎝以上



第９図　縄文時代小穴

第２表　縄文時代土坑計測表　（　）は、残存値

遺構名	グリッド	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	分類	挿図掲載	写真図版掲載
1号土坑	B－4	(0.78)	0.48	0.18	Ⅱ　a		
2号土坑	B－4	(0.34)	0.3	0.18	Ⅰ　b		
3号土坑	A－4	(0.50)	0.39	(0.19)	Ⅱ　a		
4号土坑	B－4	0.7	0.35	0.14	Ⅱ　c	○	
5号土坑	B－4	0.74	0.51	0.2	Ⅱ　d	○	
6号土坑	B－4	(0.80)	(0.44)	0.27	Ⅱ　b	○	
7号土坑	B－5	0.46	0.39	0.13	Ⅰ　d		
8号土坑	C－5	0.56	0.54	0.19	Ⅰ　d	○	
9号土坑	C－5	0.5	(0.32)	0.14	Ⅰ　d		
10号土坑	C－5	0.7	0.44	0.21	Ⅱ　d	○	○
11号土坑	C－5	0.65	0.54	0.16	Ⅰ　b	○	○
12号土坑	D－5	0.6	0.5	0.2	Ⅰ　d		
13号土坑	E－7	0.62	(0.31)	0.21	Ⅰ　d		
14号土坑	E－6	0.86	0.6	0.17	Ⅱ　a	○	
15号土坑	D－4	0.68	0.53	0.14	Ⅰ　a		
16号土坑	D－4	0.58	0.52	0.19	Ⅰ　d	○	
17号土坑	C－4	0.98	0.53	0.27	Ⅱ　a		
18号土坑	D－4	0.72	0.48	0.18	Ⅱ　c		
19号土坑	D－4	0.89	0.47	0.31	Ⅱ　e		
20号土坑	D－4	0.75	0.59	0.25	Ⅱ　d	○	
21号土坑	E－4	0.62	0.49	0.22	Ⅱ　d		
22号土坑	E－4	0.95	0.85	0.29	Ⅰ　d		
23号土坑	E－4	0.67	0.47	0.18	Ⅱ　b	○	○
24号土坑	E－3	0.63	0.52	0.12	Ⅰ　a		
25号土坑	C－5	0.78	0.41	0.15	Ⅱ　c	○	
26号土坑	C－2	0.82	0.48	0.15	Ⅱ　a	○	
27号土坑	E－2	0.92	0.5	0.17	Ⅱ　c	○	
28号土坑	E－3	0.89	0.64	0.49	Ⅱ　e	○	
29号土坑	B－4	0.52	0.4	0.15	Ⅰ　d	○	
30号土坑	B－4	0.57	0.46	0.23	Ⅰ　d		
31号土坑	C－5	0.56	0.4	0.15	Ⅱ　a		
32号土坑	D－5	0.57	0.38	0.21	Ⅱ　d		
33号土坑	D－4	0.51	0.49	0.32	Ⅱ　e		
34号土坑	E－4	0.68	0.36	0.18	Ⅱ　c	○	

第３表　縄文時代小穴計測表　（　）は、残存値

遺構名	グリッド	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	分類	挿図掲載	写真図版掲載
1号小穴	B－4	0.47	0.43	0.16	Ⅰ　a		
2号小穴	B－4	(0.42)	0.34	0.14	Ⅱ　a		
3号小穴	B－4	0.41	0.36	0.16	Ⅰ　a	○	○
4号小穴	B－4	0.44	0.39	0.2	Ⅰ　b	○	
5号小穴	B－4	0.34	(0.16)	0.1	Ⅱ　a		
6号小穴	B－4	0.45	0.35	0.15	Ⅱ　a	○	
7号小穴	A－4	0.41	0.38	0.22	Ⅰ　b	○	
8号小穴	B－4	0.45	0.34	0.2	Ⅱ　b	○	
9号小穴	B－4	0.35	0.21	0.09	Ⅱ　a	○	
10号小穴	B－4	0.42	0.36	0.13	Ⅰ　a		
11号小穴	B－5	0.41	0.36	0.21	Ⅰ　b	○	
12号小穴	B－5	0.4	0.34	0.12	Ⅰ　a	○	
13号小穴	B－5	0.38	0.32	0.12	Ⅰ　a		
14号小穴	C－5	0.44	0.39	0.18	Ⅰ　a	○	
15号小穴	C－5	0.48	0.4	0.16	Ⅰ　a	○	
16号小穴	C－5	0.38	0.37	0.12	Ⅱ　a		
17号小穴	C－5	0.42	0.36	0.16	Ⅰ　a	○	
18号小穴	D－5	0.31	0.28	0.11	Ⅰ　a		
19号小穴	D－5	0.41	0.29	0.1	Ⅱ　a		
20号小穴	D－5	0.37	0.29	0.11	Ⅱ　a		
21号小穴	D－6	0.43	0.32	0.16	Ⅱ　a	○	○
22号小穴	D－5	0.43	0.3	0.12	Ⅱ　a	○	
23号小穴	D－4	0.33	0.29	0.16	Ⅰ　a	○	
24号小穴	D－4	0.33	0.25	0.1	Ⅰ　a		
25号小穴	D－4	0.41	0.34	0.08	Ⅰ　a		
26号小穴	D－4	0.38	0.32	0.15	Ⅰ　a	○	
27号小穴	D－4	0.49	(0.36)	0.15	Ⅰ　a		
28号小穴	E－4	0.41	0.38	0.11	Ⅰ　a		
29号小穴	E－4	0.37	0.34	0.13	Ⅰ　a	○	
30号小穴	A－4	0.4	0.34	0.27	Ⅰ　b		
31号小穴	D－4	0.41	0.36	0.11	Ⅰ　a		

第Ⅴ章　まとめ

1　旧石器時代

遺物は、休場層上位（YLU）から剥片が１点出土した。

遺構は、休場層直下黒色帯（BB０）上面で、３基の土坑を検出した。１・３号は楕円形を呈し、２号はほぼ中央部で確認調査時のテストピットに切られているが、長楕円形を呈していたと考えられる。土坑の長径はいずれも約90㎝と大型のものである。

遺構は土坑以外確認されなかった。

土坑は貯蔵穴・墓穴・陥穴などに用途が分けられるが、特定するのは難しい。本遺跡は、大きさや土坑以外の遺構が認められなかった点と遺物の出土がない点から、居住の場ではなく狩猟の場ではないかと考えられる。そうすると土坑は、陥穴と考えるのが適当だろう。土坑の配置をみると、それぞれが約16ｍの等間隔で造られているが、２号は他の２基と比べ標高の高いところに造られている。このことに注目するならば、２号と標高を同じくある箇所は削平されているか調査区外となっているため明言はできないが、標高を変えて計画的に２列平行に造られていた可能性を考えても良いかもしれない。

2　縄文時代

土坑34基、小穴31基が検出された。遺構覆土からの遺物、縄文時代包含層からの遺物出土もなかったため、時期と用途は不明である。

柏窪Ａ遺跡周辺の縄文時代遺跡には、桜畑上遺跡や中峯遺跡、丸尾北遺跡などがある。これらの遺跡からは、縄文時代中期の住居跡が検出されている。特に北隣りの桜畑上遺跡からは、敷石住居跡や配石遺構、石囲炉を伴う住居跡が25軒検出され、遺物の出土も多い。

しかし、本遺跡からは縄文時代の遺物出土がなく、平成19年度に調査した柏窪Ａ遺跡も土坑のみの検出で、遺物の出土はなかった。

本遺跡周辺は、昭和44年に開始された農業構造改善事業によって上部層が動かされ、縄文時代の包含層が広い範囲で失われ、その後農地として利用されたため、もし縄文時代の包含層があったとしても遺物が失われた可能性はある。しかし農業構造改善事業以前の昭和44・45年に柏窪遺跡の調査が行われ、昭和44年の調査では遺構のみの検出で、遺物の出土はなかったと報告されている。以上のことから、本遺跡周辺は縄文時代の人々の居住の場ではなかったと考えられる。

参考文献

愛鷹ローム団研グループ　1969 「愛鷹山麓のローム層－東名高速道路工事現場を中心として－」『第四紀研究第８巻第１号』

加藤学園考古学研究所　1993 『伊豆韮山カントリークラブ地内遺跡群－ゴルフ場増設に伴う発掘調査報告書』「先史時代の陥穴について」

長泉町・長泉町教育委員会　1992 『長泉町史　上巻』

沼津市教育委員会　1982 『子ノ神・大谷津・山崎Ⅱ・丸尾Ⅱ』 沼津市文化財調査報告書　第27集

沼津市教育委員会　1990 『清水柳北遺跡発掘調査報告書　その２』 沼津市文化財調査報告書　第48集

沼津市教育委員会　1996 『柏葉尾遺跡』 沼津市文化財調査報告書　第61集

長泉町教育委員会　1978 『西願寺遺跡（Ａ地区） 長久保城址（二の丸）』

長泉町教育委員会　1980 『柏窪遺跡発掘調査概報昭和54年度』

長泉町教育委員会　1992 『柏窪遺跡』

静岡県埋蔵文化財調査研究所　2003 『大岡元長窪線関連遺跡Ⅰ』

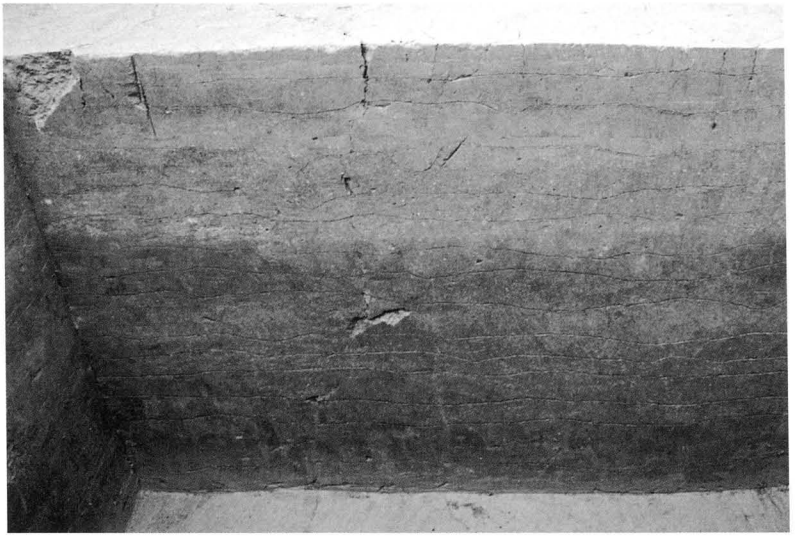
写 真 図 版

遺跡全景（南東から）

図版１

１　旧石器時代全景

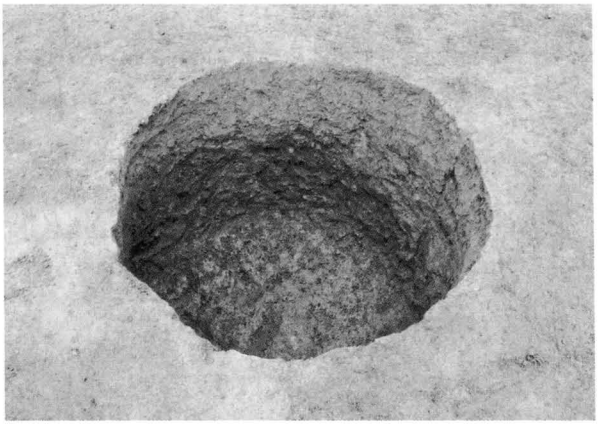
２　土層(1)TP8
BB0～SCⅢs1層（南から）



３　土層(2)TP8
SCⅢs1～中部ローム層（南から）

１　旧石器時代１号土坑（南から）

２　旧石器時代２号土坑（南から）

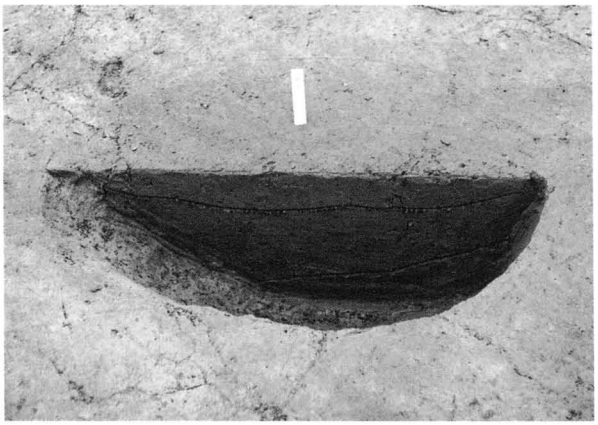


３　旧石器時代３号土坑（南から）

４　旧石器時代剥片

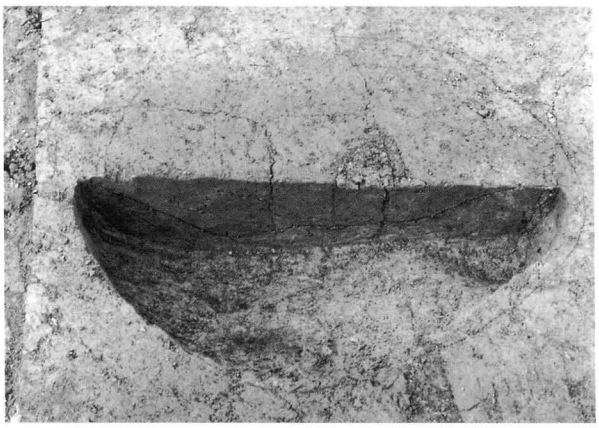
５　縄文時代遺構（北西から）

図版３

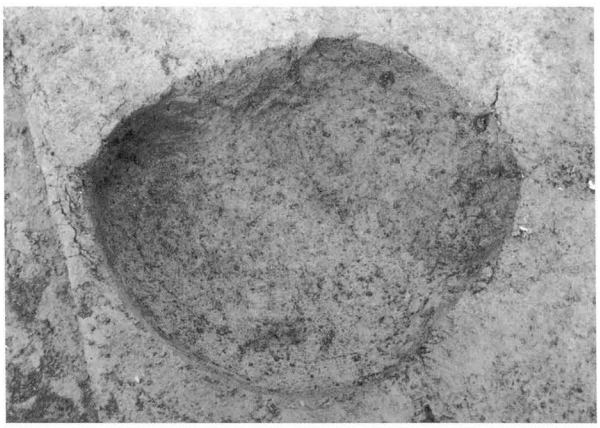


１　縄文時代10号土坑半截（北東から）

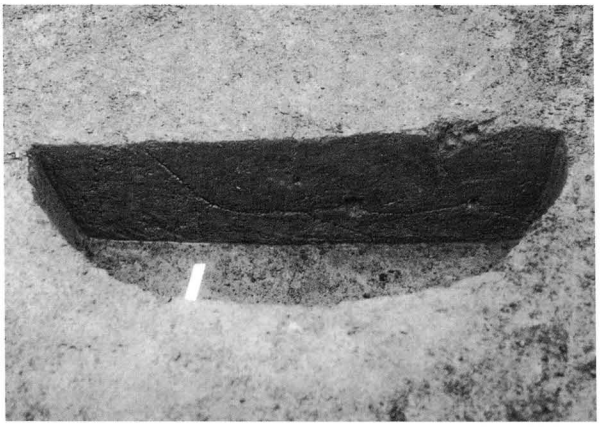
２　縄文時代10号土坑完掘（東から）



３　縄文時代11号土坑半截（南から）

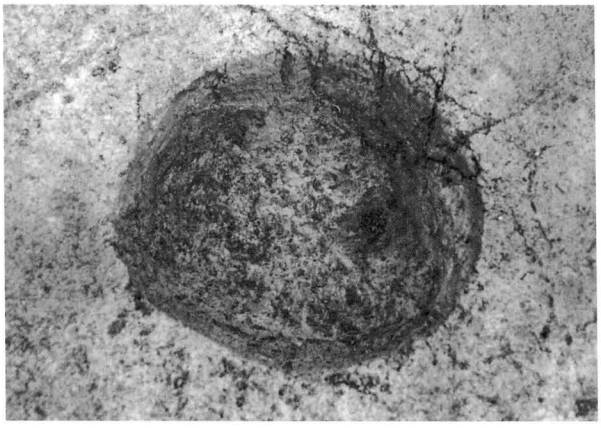


４　縄文時代11号土坑完掘（南から）



５　縄文時代23号土坑半截（南東から）

６　縄文時代23号土坑完掘（南から）



７　縄文時代　３号小穴完掘（南東から）

８　縄文時代21号小穴完掘（南東から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	おおおかもとながくぼせんかんれんいせき
書　　名	大岡元長窪線関連遺跡Ⅳ
副　書　名	（主）大岡元長窪線地域活力基盤創造交付金（道路改築）工事に伴う埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所
シリーズ番号	第242集
著書者名	吉村たまみ
編集機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
所　在　地	〒422－8002　静岡県静岡市駿河区谷田23番20号　TEL 054－262－4261（代表）
発行年月日	平成23年２月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
かしわくぼえーいせき 柏窪A遺跡	しずおかけん 静岡県 すんとうぐん 駿東郡 ながいずみちょう 長泉町 かみながくぼ 上長窪 764-1他	22342		35°　08′　44″	138°　52′　34″	20100201 ～ 20100531	1,674㎡	（主）大岡元長窪線地域活力基盤創造交付金（道路改築）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
柏窪A遺跡	散布地	旧石器時代	土坑	剥片	
	散布地	縄文時代	土坑・小穴		

要　　約	柏窪A遺跡は静岡県駿東郡長泉町に所在する。愛鷹山南東麓の緩やかな丘陵に位置する。旧石器時代の遺構は、土坑が３基検出された。いずれも陥穴と考えられる。縄文時代の遺構は、土坑34基・小穴31基が検出された。包含層からの遺物の出土がないため、時期や用途は不明である。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第242集

大岡元長窪線関連遺跡Ⅳ

平成21・22年度（主）大岡元長窪線地域活力基盤創造交付金（道路改築）
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

柏窪Ａ遺跡

平成23年２月28日

編集発行　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23－20
TEL　054－262－4261㈹
印 刷 所　みどり美術印刷株式会社
〒410-0058　沼津市沼北町２丁目16番19号
TEL　055－921－1839㈹